

実施期間

2019年4月
2020年9月

「伝えよう、日本の心プロジェクト」 全国で推進中!!

来る東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、日本の親切心を世界に発信しようと立ち上げた「伝えよう、日本の心プロジェクト」。全国各地より届いた活動レポートを紹介します。

あいさつで、みんなつながる トモダチ作戦

校門に響くあいさつ

夏休み明けの8月26日(月)、**郡山市青少年育成白鳥地域会議**の呼びかけで、白鳥ジュニアリーダーズクラブ、郡上北高MSリーダーズ、郡上署などが集まり、白鳥中学校、郡上北高校であいさつ運動を行いました。これまで、駅やバス停などで行っていたあいさつ運動を、学校関係者の協力を得て各校の校門前で実施。

久しぶりの登校に、少し恥ずかしそうな生徒たちで



郡上北高であいさつ運動

したが、地域の方の元気なあいさつに「気持ちが引き締まる」との声が聞かれました。

「小さな親切」実行章

最高の試合に

東京オリンピック・パラリンピックに先駆けて、9月20日から熱戦が繰り広げられた「ラグビーワールドカップ2019」。きれいな会場で試合を観戦してもらおうと、7月23日(火)、**大分県立情報科学高等学校**の全校生徒が、昭和電工ドーム大分(大分スポーツ公園総合競技場)の全座席34,000席の拭き掃除を行いました。

広い競技場の座席を、生徒たちが一つひとつ1時間半かけて拭くと、ぞうきんは真っ黒に。世界中から観戦に訪れたファンたちの心に、試合とともにきれいな会場がいつまでも忘れられない思い出となるでしょう。



大分県本部より賞状と特別バッチが贈呈されました

瀬戸内国際芸術祭を盛りあげよう

7月15日(月)、香川県本部(事務局:百十四銀行)は、19日から始まる「瀬戸内国際芸術祭2019」の開催に合わせて清掃を実施。例年、高松市中央公園を清掃していましたが、今年は、清掃場所を芸術祭の会場となる島々の起点となる「サンポート高松」に変更。

芸術祭に訪れる多くの観光客に気持ちよく過ごしてもらうため、約250名が汗を流し、落ち葉やごみを拾いました。

瀬戸内国際芸術祭とは:
3年に1度、瀬戸内海12の島と2つの港を舞台に開催される現代アートの祭典



のぼり旗を掲げて清掃しよう!

清掃場所にのぼり旗を掲げることで、活動のPRにつながるだけでなく、参加者の連帯感が生まれ、美化意識の向上につながります。「小さな親切」運動本部では、『東京2020応援マーク』入りののぼり旗を、東京オリンピック・パラリンピックが終了するまで無料提供しています。ぜひご活用ください。(会員の有無を問わず、趣旨に賛同する団体に無料提供)

※連絡先は表紙裏カラーページ参照



新たに「学習会」を開催

山陰本部(事務局:山陰合同銀行)では、6月2日(日)~30日(日)にかけて、宍道湖畔、山陰両県(鳥取・島根)の海岸、景勝地など17ヶ所で実施。会員や地元企業、ボランティアを中心にのべ2,000名以上が参加しました。

島根県松江市の古浦海水浴場では、「次世代の環境のために」をテーマに環境保全活動を進める団体「トヨタソーシャルフェス」と共催で、オリンピックをテーマとした「学習会」も開催しました。



本店・支店 心はひとつ

5月17日(金)、徳島県本部(事務局:阿波銀行)では、市内中心部4ヶ所で会員、地元企業を中心に41団体、500名以上が参加し実施したほか、「美しい心 美しいふるさと」のキャッチコピーの入ったタオルを通行人に配り、運動PRも行いました。

東京では、東京支店の行員が毎年社宅のある二子玉川駅周辺の清掃活動を実施しています。今年は6月9日(日)に実施され、行員とその家族約40名が参加。「東京2020応援マーク」入りののぼり旗を掲げ、活動してくださいました。



阿波銀行玉川社宅(東京)でも実施

日本列島クリーン大作戦

古都奈良のおもてなし

9月1日(日)、奈良県本部(事務局:南都銀行)主催の「2019クリーンアップならキャンペーン」(共催:奈良県/親切・美化なら県民運動推進協議会/なら落書き防止活動ネットワーク)が開催されました。

鹿で有名な奈良公園をメイン会場に、市内5コース、約1,100名が参加。開会式では奈良県本部の植野康夫代表が、「海外からの観光客も増えています。今日の清掃を通じて、お客様をきれいな街でおもてなししましょう」と呼びかけました。

さすが日本の古都だけあって、東大寺、興福寺など、世界遺産「古都奈良の文化財」周辺も清掃コースとなっており、参加者は側溝などの見えにくいところにある吸い殻などのゴミまで、丁寧に拾い集めました。

今回より、収集したゴミは参加者自身が、「燃えるゴミ」「ビン」「カン」「ペットボトル」「その他燃えないゴミ」に分別し捨てる方式を採用。終了後、分別作業をするスタッフの負担も減り、参加者の分別意識も高まる、グッドアイデアだと参加した運動本部職員も感心しました。



拾ったゴミは各自が分別